

# 海人

## 現場最前線



## 大型 SEP 船で洋上風力発電建設に従事

五栄土木株式会社 船舶部船長

遊佐 正法 さん

ゆさ・まさのり

北九州港響灘地区で洋上風力発電所を建設する事業が進行している。海底に基礎を構築したり、風車を設置したりする作業に、2隻のSEP型多目的起重機船が投入されている。1隻目は五洋建設が建造した「CP-8001」、2隻目は五洋建設、鹿島、寄神建設の3社が共同で建造した「CP-16001」である。

遊佐さんは着工時から、国内最大となるこのビッグプロジェクトに参画。SEP船による作業が予定通りに行われるよう、調整する役割を担う。

高校卒業後、五栄土木に入社。元々機械いじりが好きで、自分のバイクを整備している姿を見た知人から誘われたのがきっかけだった。



最初はクローラクレーンのオペレーターとして陸上工事を中心に活動。2～3年目からは杭打ち船に乗るなど、海上工事に携わった。30代でクレーン付き台船の船長になり、東京湾内を中心とした海上工事で経験を積んでいる。五洋建設所有の多目的自航式起重機船「CP-5001」に配属となった時には、20人ほどの乗組員と共に離島での工事に向いていった。

離島の工事では、3～4カ月もの間、乗組員らと船上で生活を共にする。「皆さんがモチベーションを保てるよう、体調を含めて気にかけておく」ことは船長として大切な役目だ。積極的に話しかけたり、乗船時に持ち込んだサッカーのDVDを、興味がありそうな人に貸すなど共通の話題を見つけては、その輪を広げてコミュニケーションを取る。夏場には、夜間に船のライトをすべて消して「天の川を見る会」などを開催した。無数の星が瞬く夜空を見上げた乗組員からも好評を得た。こうした束の間のイベントを企画することも、船長としての役目を果たすのに一役買っている。

「CP-8001」では、建造時に五洋建設の建造チームの一員として参画。施工管理者や各職種の作業員など最大120人が乗船するSEP船の運航管理を行う立場から、船の構造や設備をしっかりと把握することに努めた。

今携わっている洋上風力発電事業は、自分たちの仕事が見える形で残るだけに、乗組員たちも誇りが持てる。そうしたプロジェクトに引き続き参画していきたいという。

### 【SEP型多目的起重機船 CP-8001】

全長約73m、全幅40m、喫水4m、デッキ面積約1,750㎡、主クレーン800t、26m、居住人数最大120人(運航管理:五栄土木)